

マイクロモビリティの分野では、人員削減の影響が広がっており、バードという企業も例外ではありません。現在、バードでは詳細な数値は不明ですが、複数の従業員がLinkedInに人員削減に関する投稿をしており、データから戦略、運営に至るまでさまざまなチームに影響を与えているようです。解雇された従業員の中には電子エンジニアも含まれており、バードの消費者向けスクーターの設計に関与していた方もいました。

バードは過去2年間で3度目の人員削減を行っており、最近のものでは10月にスピンを買収した後、余剰人員を理由に従業員を解雇しました。バードは過去にも収益性の向上を図るために人員削減を行っており、現在も収益性からは程遠い状態です。また、バードは株価が低迷し、現在も多額の赤字を抱えているため、今後の生存が不透明です。

このような状況下で、バードは経済的に生き残るために苦しんでいると言えます。現在のキャッシュバランスから判断すると、バードが将来12カ月を生き延びるのは難しいかもしれません。この状況に関する詳細な情報が必要であれば、rebecca.techcrunch@gmail.com

に匿名で相談することができます。

マイクロモビリティ分野における人員削減の影響は、この分野全体に影響を与えており、今後の展望が注目されています。